

期にふさわしい生活

－ 幼・小の生活や学びの連続性を探る －



2003

島根大学教育学部附属幼稚園

はじめに

島根大学は昨年、平成15年10月に島根医科大学と統合し、新しい島根大学として再出発し、さらに、平成16年4月からは設置形態が変わり国立大学法人島根大学となりました。また、山陰法科大学院を新設し、これと平行して法文学部改組を実行しました。教育学部では鳥取大学との協定に基づき、教員養成に特化した学部衣替えをしております。

以上のように、附属学校園の母体である島根大学、及び教育学部に戦後新制大学設立以来の大きな改革を行いました。

これらの改革の中で本園に大きく関連したものは、教育学部における改革です。従来の幼児教育選修で行ってきた教育内容を、初等教育開発専攻、心理・臨床専攻、特別支援教育専攻の3専攻に吸収させ、小学校教育を含んだ初等教育として一貫した学生教育システムを構築したことにあります。本来、子供の成長は突如として急激な変化を示すものではありません。また、個人的にも大きな差異があります。ですから、今回の改革を一言で表現すると、「学生に幼稚園と小学校それぞれの教育課程を各専門分野から総合的に学ばせ、幼稚園と小学校双方に見識のある教員養成を目指す。」というもののなのです。

この考え方は、学部教育だけではなく、附属幼稚園と附属小学校の教育課程にも反映されなければなりません。小学校が幼稚園での保育を理解し、幼稚園が小学校における教育を確実に予測することで、より無理のない幼児期と1・2年生の教育を保証できると考えているのです。その意味で、今年度の研究では附属小学校1年生との共同作業を開始できたことは重要な意味を持っています。

ところで、これまで本園は、島根県における3歳児保育に関して先駆的な役割を果たして参りました。今後もしばらくは、その役割を継続するでしょう。しかし近年、県内でも幼稚園における3歳児保育の普及が見られるようになりました。保育園での実践は申すまでもありません。したがって、本園の3歳児保育への取り組みは一定の成果を上げてきましたが、残念ながら最早モデルケースとしては存在しえない時期が近づいているとも言えるでしょう。

加えて、地方行政の幼稚園経営からの撤退や、幼稚園でも保育園でもない第3の組織（松江市では幼保園など）設立も具体化されつつあります。このような環境において附属幼稚園の存在を考えると、やはり本来の目的、すなわち就学前教育に視点を据えるべきであるとの見識が浮かび上がります。自然でより抵抗のない義務教育への導入とも申せましょう。

一貫教育に関しましては、中国地方でも広島大学と岡山大学に重要な先行研究があります。今後、多くの先行研究の検討と本園独自の状況を勘案し、よりふさわしい一貫教育を模索しなければなりません。また、入園・入学への相互関与、教員の人事交流、児童・園児の共同作業など多くの課題を克服し、具体化する必要があります。本研究が山積した問題解決への糸口となるよう、ゆるやかで、しかも確実な改革への第一歩となるよう祈りつつ筆を置きます。

園長 田中 昭

目 次

はじめに

I. 研究主題について	1
II. 実践報告	
1. 感覚・感性・表現・認識の育ちの過程を探る	5
2. 子どもがめあて（課題意識）をもって遊びを追求し、工夫を生み出すための環境 づくりを探る	17
3. 友だち（同年齢・異年齢）の関わりの中で経験する双方向の内容と育ちを探る	35
今後の研究の展望と課題	57

実践報告



次に記す保育実践の記録および考察の文中、子ども・保護者名は全て仮名である

研究同人

島根大学教育学部附属幼稚園

園長	田中昭
副園長	周藤友幸
教諭	野津道代
	星野和美
	梶原泉
	平田有美
	奥谷真理子
養護教諭	藤原真美
講師	岡崎由美子
	山崎陽子

島根大学教育学部

大谷修司	(理科教育)
秦明德	(理科教育)
川路澄人	(美術教育)
高井弘弥	(心理学)
田中昭夫	(幼児教育)
西田忠男	(幼児教育)
林隆一	(技術教育)
廣兼志保	(附属教育臨床 総合研究センター)
森脇紀浩	(附属小学校)